

→新しい1万円札の肖像になる渋沢栄一と大阪

2020.11.8(日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第567回 参加報告



岩本栄之助

■公会堂自由エリアを見学する

講演後は地下1階の展示室を中心に、自由見学だ。

展示室には、公会堂建設に多額な寄付をした岩本栄之助ゆかりの記念品や、近代大阪の名建築物の資料などが展示されている。

岩本栄之助は北浜で株式の仲買人業を営み、明治44年(1911)、大阪府に100万円の寄付を申し出たのであるが、公会堂の建設中に相場に失敗し、ピストル自殺してしまう。寄付された100万円は渋沢栄一の助言で財団法人公会堂建設事務所が設立されており、その<財団の財産>となっていたので、彼の大量の穴埋めから逃れたとのことである。

2018年に公会堂開館百周年を記念する行事の1つとして『浪花の相場師・ああ岩本栄之助』という歌も作られている。

■神像のレプリカが横井先生のお薦め

公会堂の東正面玄関の屋上に設置されている「神像」のレプリカについて、先生は特段の説明をされた。その神像とはギリシャ・ローマの神話にある、商いの神「メルキュール」と科学芸術平和などを兼備した神「ミネルバ」。大阪の商工業にふさわしい2神だ。

公会堂を振り返り、真正面のアーチ型の屋根の上に取り付けられたその「神像」を見上げた。何度も公会堂には来ていたが、教えて貰って初めて気づいた「神像」だった。

■新郎新婦の記念写真の「前撮り」班に遭遇

大阪中央公会堂の建物が、2002年9月に保存再生工事が竣工したこともあり、中之島のこの界隈は絶好の撮影スポットである。公会堂などを背景に結婚式の「前撮り」をする班が3つも4つもいた。午後の集合場所のすぐ傍を前撮り班が通ると、文学散歩のメンバーから祝福の声や拍手が飛んだりし、カップルもそれに応え、穏やかな日差しと紅葉にも恵まれて、しばし微笑ましい光景である。

■難波橋、五代友厚銅像

午後の散歩が始まった。公会堂から南へ、渋沢栄一も同時代に見たかもしれないポイントを辿るようだ。中之島を東に、「ライオンの橋」難波橋を南に渡り、大阪証券取引所の玄関前で五代友厚の銅像、大阪俵物会所跡顕彰碑、「梅檀の木橋」と顕彰碑を見学。大阪で一番



愛珠幼稚園

歴史の長い現役の幼稚園・愛珠幼稚園園舎(国重文)、そして西郷隆盛と勝海舟が懇談したという勝海舟寓居・海軍塾跡である専称寺跡を巡り、渋沢が創設に関わった東洋紡に縁が深い備後町の綿業会館まで足を伸ばし、解散となった。時に14時30分。解散の本町駅までは徒歩5分だそうだ。本日の参加者は、47名であった。

<報告：石元英雄(2020/11/14記)>